

2021 年度(前期)指定公募

「市民の集い開催への助成」

公益財団法人在宅医療助成 勇美記念財団 助成事業

2022 年 2 月 2 日開催

【ACP(人生会議)とはなんなのか】

完了報告書



申請者: 認定 NPO 法人希望の会理事長

轟 浩美

提出日: 2022 年 3 月

ACP(人生会議)とはなんなのか

【事業概要】

ACP(Advance Care Planning)とは、将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、本人を主体に、そのご家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援するプロセスのことです。

厚生労働省では、より馴染みやすい言葉となるよう 2018 年に愛称を公募し、「人生会議」と呼ぶことに決定しました。2019 年厚生労働省が進める「人生会議」のポスターに「ACP の内容を誤解させかねない」という批判が多く寄せられたことから、厚生労働省は予定していた自治体へのポスター発送を中止しました。そのことは「騒動」「炎上」として大きく取り上げられましたが、ACP とはなんなのか？ ACP がなぜ必要なのかについての理解はどうでしょうか。

本セミナーは、厚生労働省 人生会議(ACP)国民向け普及啓発事業に関する検討会委員として 2020 年度より検討に携わっている 3 名が、自身の経験を踏まえた「人生会議」についての考え方を話し、座談会を通じて深めていく目的で開催いたしました。

【日時】 2022 年 2 月 2 日(水) 19 時～20 時 30 分

【参加費】 無料

【定員】 500 名

【開催方法】 zoom ウェビナーを使用したオンライン開催

【登壇者】

(セミナー講師)

高山 義浩氏(沖縄県立中部病院感染症内科・地域ケア科 副部長)

紅谷 浩之氏(医療法人オレンジ 理事長)

(司会)

轟 浩美(認定 NPO 法人希望の会 理事長)

【主催】 認定 NPO 法人希望の会

【後援】 厚生労働省

東京都

一般社団法人 全国がん患者団体連合会

グリーンループ

一般社団法人 ピーパック

【運営支援】 一般社団法人 ピーパック

【タイムテーブル】

		時間	内容
開会挨拶 導入	19:00- 19:15	15分	轟 浩美 (認定NPO法人希望の会理事長)
ご講演①			
講演	19:15- 19:35	20分	講師：高山 義浩氏 (沖縄県立中部病院 感染症内科・地域ケア科 副部長)
ご講演②			
講演	19:35- 19:55	20分	講師：紅谷 浩之氏 (医療法人オレンジ 理事長)
対話			
座談会	19:55- 20:25	30分	高山 義浩氏 ・ 紅谷 浩之氏
振り返り	20:25- 20:30	5分	轟 浩美

※ご講演部分は、講演協力をしてくださった患者さん、ご家族の事例が含まれているためアーカイブ配信なしとしました。

後半の座談会のみ、希望の会公式 YouTube チャンネルよりアーカイブ配信しています。

<https://youtu.be/GwdT2Pl5nfo>

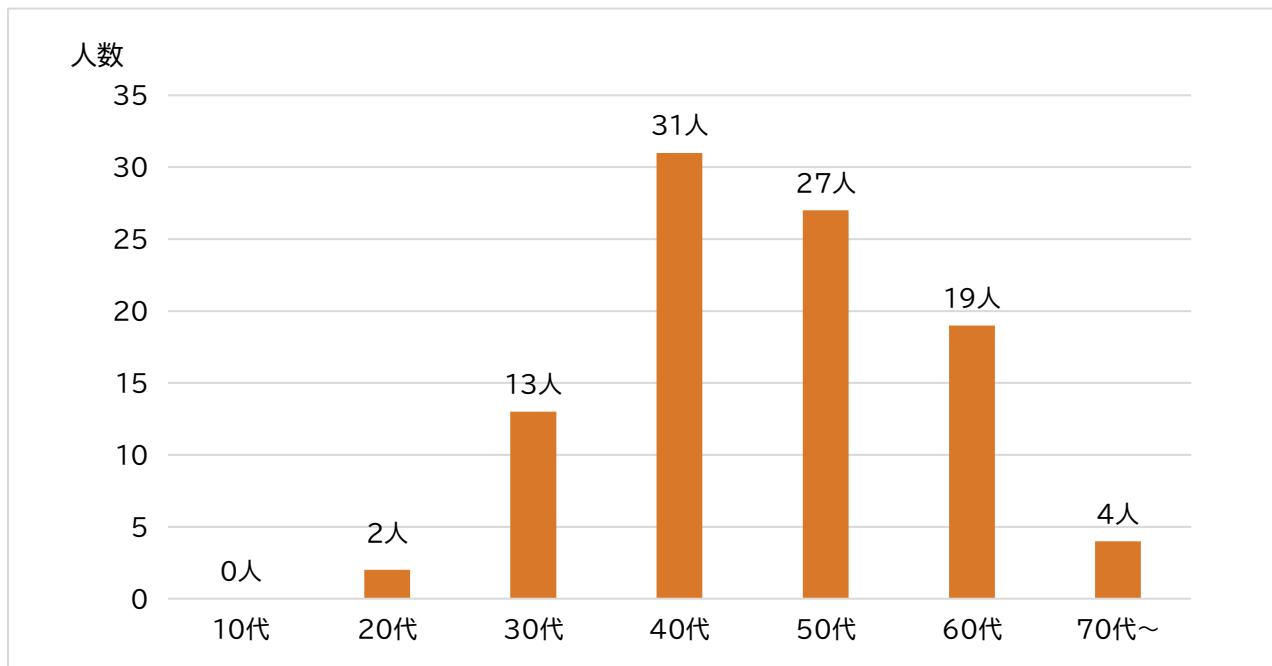
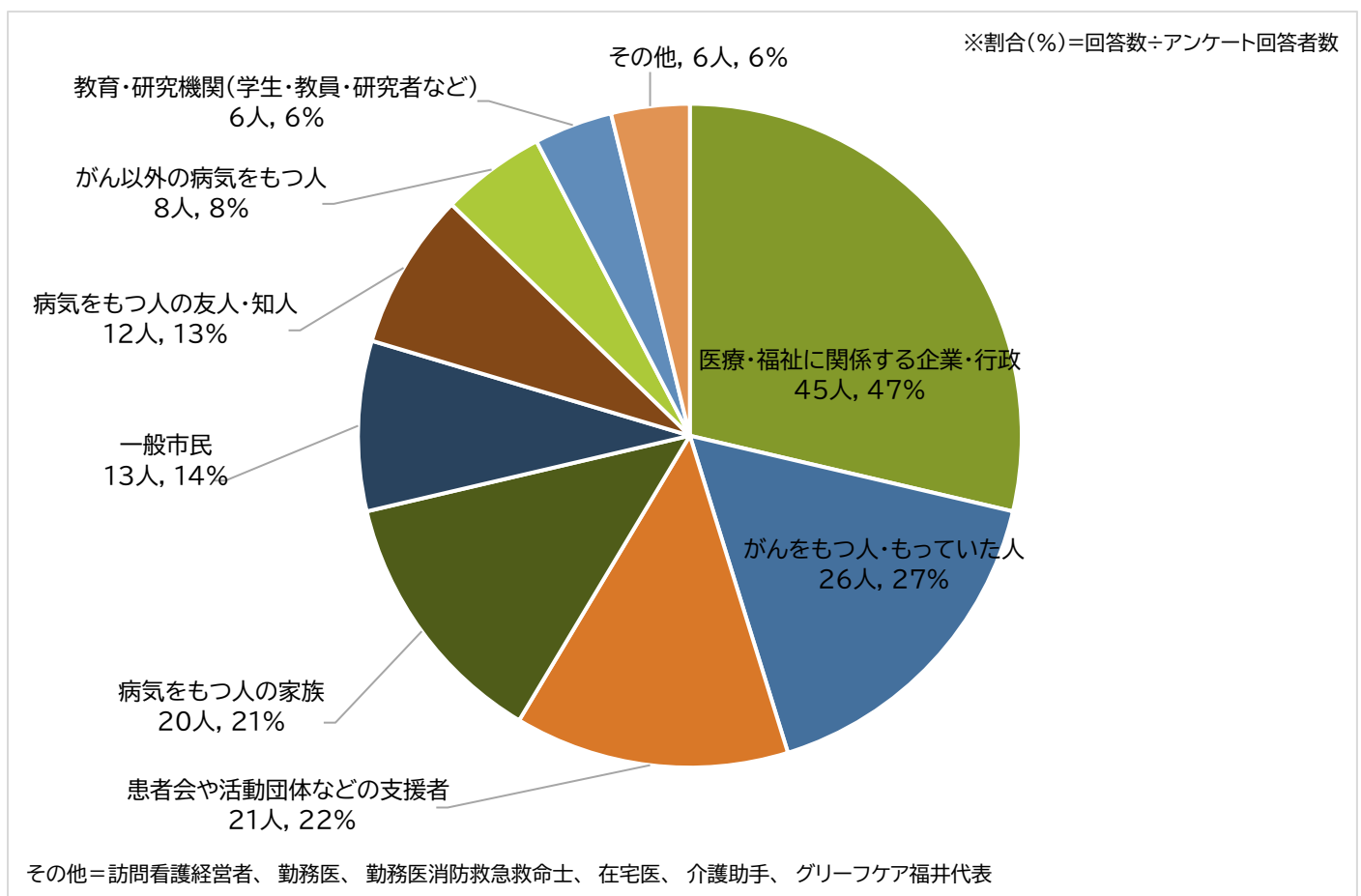


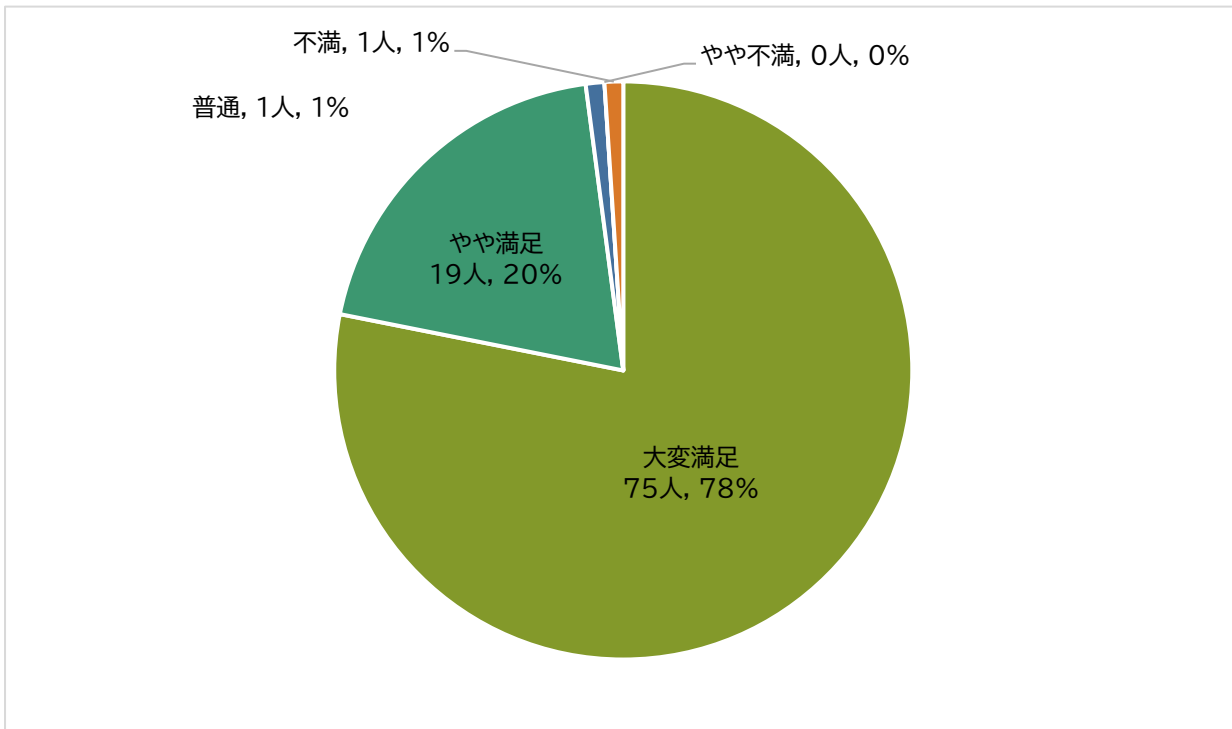
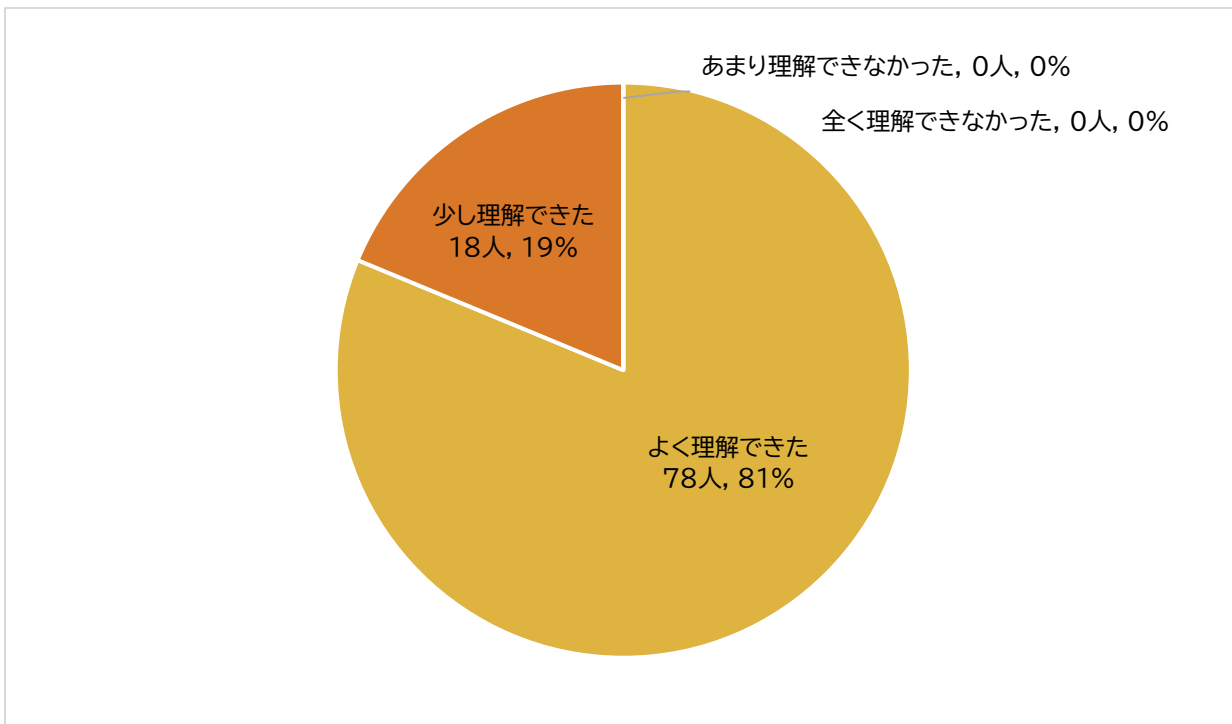
認定 NPO 法人希望の会 御中

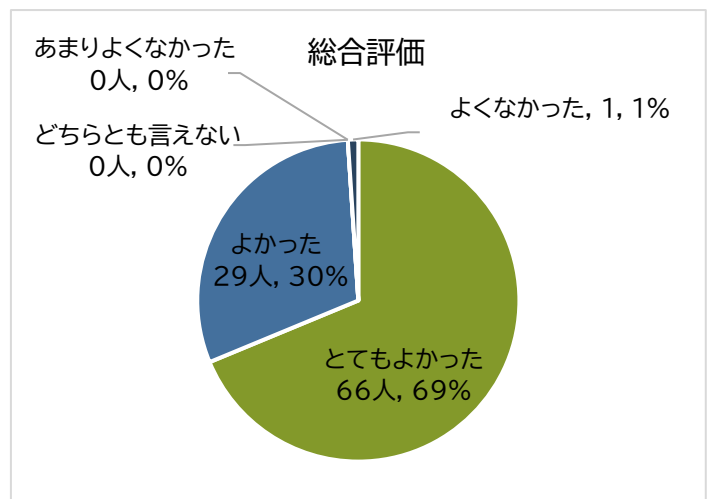
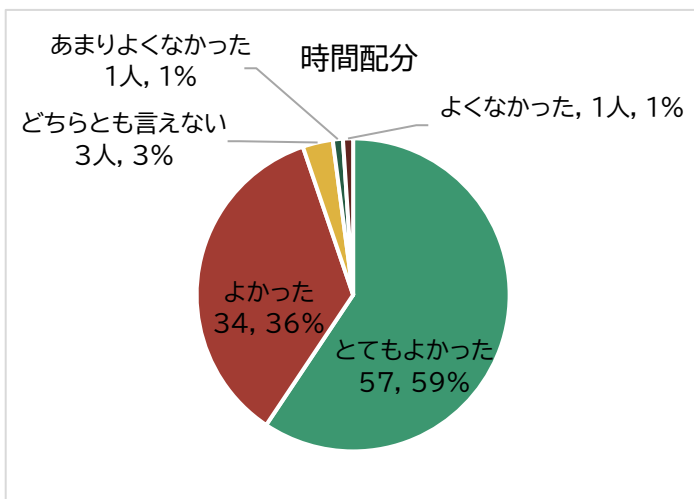
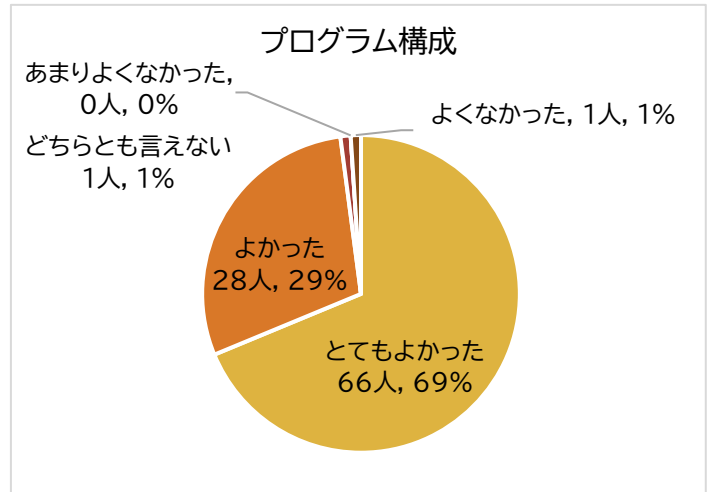
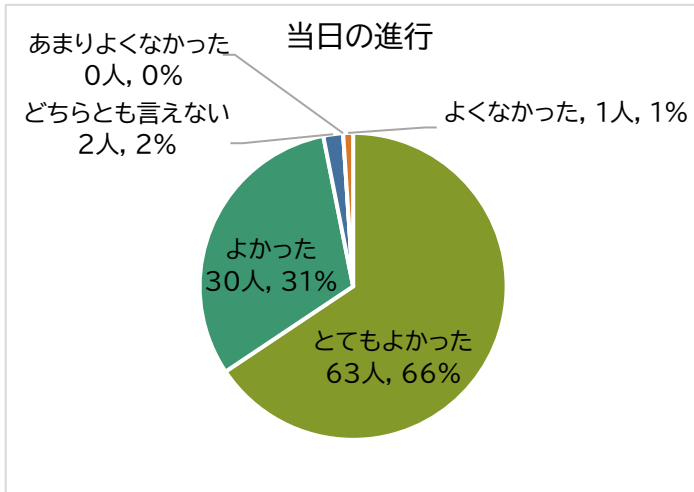
2022年2月21日
一般社団法人ピーベック

「ACP とはなんなのか」 参加者アンケート集計結果

開催日： 2022年2月2日(水)
実施期間： 2月2日～2月16日
設問数： 6問（自由記述については原文のまま掲載しています。）
回答者： 96名
頁数： 全10頁

問1：年齢を教えてください。

問2：お立場を教えてください。※複数回答


問3: 今回のイベントに参加していかがでしたか？

問4: 「ACP(人生会議)」についてご理解いただけましたか？


問5: イベントの運営全般についてお聞かせください。


問 6: あなたが人生会議としてやったこと(または、これからやってみようと思うこと)は何ですか？

- ・ 聞くこと
- ・ 考え続けること、悩んだり迷ったりするプロセスを大事にすること
- ・ 自分の両親と向き合うこと
- ・ 明日、早速、カンファを開き、対話したいと思います。
- ・ 家族との会話
- ・ お互いに傾聴@&対話する習慣をつける。なにげない、ふだんのおしゃべり。
- ・ 自分の考えや弱みを表出できるチャンネルを増やすための活動を始めてみようと思いました。まずはコロナが落ち着いたらスナックに行ってみようと思います
- ・ 誰でも良いので、対話すること・ コミュニケーション。
- ・ 日ごろの対話する機会を増やすこと
- ・ ひたすらニーズ確認と対話と寄り添い楽しむ
- ・ 患者と家族の橋渡しをすること
- ・ 型にはめようとしらないこと
- ・ 自分のことを語る練習とひとさまのことを聞く練習
- ・ ACP の普及、啓蒙
- ・ 両親に介護が必要になったとき、どんな生活をしたいのか、どんなふうに自分たちは支えたいのか話し合った。
- ・ かけらを振り撒くこと
- ・ 日頃から周りの人と今以上にたくさん話をしておこうと思った。
- ・ ①最期の迎え方を考える。 ②遺言書(公正証書)の作成 ③出来ていないこと:身辺の整理
- ・ まずは家族(妻・子供)と今回の内容を話して意見を聞き、意見を伝えてみたい。
- ・ 周囲の人に「私らしさ」が伝わるように日頃からの関わりを丁寧にしようと思う。
- ・ 在宅で予防介護のケアマネをしています。早い段階から話すきっかけを持つことが大切だと学ぶことが出来、看取り期に入る前からかかわる専門職の 1 人としてとても参考になりました。対話の重要性は理解できましたが、実際に対話を促すには対人援助の技術も求められます。今後、対話のコツを含めて伺ってみたい、学んでいきたいと感じました。

- ・ 残された人生をどうやって行きたいのか、家族に伝わっていると思いますが折を見て、話し合うことが出来たらと思います。子供はまだ小さいので、どの様に伝えるかも難しいのですが、少しずつ人生観を伝えていければと思います。
- ・ ACP に関するセミナーの開催
- ・ その人を良く知る事から始めたい
- ・ 家族で話し合う
- ・ 家族と気楽に何度も人生観を話し合うこと
- ・ 訪問看護ステーションの一部分で「地域の保健室」をやっています。そこで地域の方たちと交流していますが、月 1 回の地域住民向け健康講座で、地域のそれぞれの方がどう住み慣れた地域で過ごしていきたいのかなど人生会議について話していけたらと思います。
- ・ 私のがんの治療法について家族で話し合った。
- ・ 対話ができる場の大切も大切なことだと思いましたが、選択や可能性のチャンネルを増やす活動に協力したいなと思いました。
- ・ 理想の生き方について話していきたい
- ・ 話を聞かせてもらえる雰囲気と場と人なりになれるように精進する
- ・ 今日途中からしか参加できなかったのが残念でした。人生会議とは何なのか、まだまだ知識が浅く考えが自分の範疇を越えていけないな…と感じているのでこのようなイベントやオンラインの市民講座などになるべく参加して理解を深めていきたいと思う。
- ・ まずは理解のために勉強したいです。
- ・ 疾病の時期
- ・ タイミングは予測できませんが、生き方(思考と趣向)を語るチャンネルを複数経路維持することの意味を見つめ直してみたいと考えました。
- ・ 両親、夫と今後の起こりえるような状況を考え話し合いたい。その場があれば普段の会話で聞いていきたい
- ・ 人生会議のプロセスを大切に、対話すること
- ・ 個人としては、大切な人と、お互いのことや暮らし方をもっと話そうと思いました。また、仕事上では、一事前指示書ではないエンディングノートの取り組みに努めていきます。
- ・ 運動

- ・ 大切な人や医療者とだけではなく、普段からたくさんのチャンネルの人と生き方、死に方、人生観だけではなく、好きなこと、嫌なことなど、いっぱいおしゃべりしておかなくては、ですね。待ち遠しい春とマスクを外す日が早く来ます様に！
- ・ 特に今回の内容からは無し
- ・ 自分の気持ちをエンディングノートとして残すのではなく、子供達へ気持ちをつなぐためのつなぐノートとして残したい。
- ・ 正解はないけれど、夫、母と会話を持つこと。高山先生のスナックではないけれど、私をよく理解しているエステティシャンにぶちまけてます笑
- ・ 話せる相手を作るよう努力したい。話したい相手にもなりたい。
- ・ 自分の希望したい事伝えたい事意思表示メモ 今後はそれについて自分の声で伝えたいと思いました。
- ・ 当事者の話を聞く中で根っこの部分に気を配り対話していこうと思います
- ・ もっとチャンネルを増やして気楽に色々考えたい
- ・ 母がガンの終末期に、これからの夢の実現や、心配事を聴く時間が持てた
- ・ ACP をテーマに絵本を作成、啓発のためのテキスト、一般の方へのパンフレットを作製した。看護学校の授業の教材として活用している。医療者と一般の人が話し合う場を作りたい。
- ・ 以前の職場で、「人生の木」を作成して職員同士で語り合ったことがありました、
- ・ 今タイムリーに高齢の一人暮らしの父と終末期について度々話していますが、在宅の方がいいだろうと話を進めようとしていたことについて、いや待てよ、という気になりました。父は私を頼っていますが、主治医や姉妹と一緒に、いろんな可能性やメリットデメリットを理解し共有しながら、皆が父を想い、父が納得してこれからの時間をすごせるための対話をしたいと思います。ただ、今大勢で会っておしゃべりできないんですよね。それが辛いです。
- ・ 話しをしていく。じっくり話していく。繰り返し話しをしていく。途中で考え決定が変わってもいい。心の中が分かってもいい。そのようなことが出来る雰囲気作りや出会いのきっかけが大切かと思いました。もし、雰囲気やきっかけを作ることが出来ない場合は、いつでもアクセスできる場所を開放してあるといいなと思いました。人生会議に関して今すぐにこれをやってみようとは考えていませんが、いつかはやってみたいと思っています。今すぐに考えているのは、胃がんでお世話になってきていますので、けがや病気で病院に来ます方々にその人の気持ちにならないかもしれないかもしれませんが病院でボランティアをコロナが収まり次第やりたいと考えています。
- ・ 自分が安心して話ができる人だったり、場だったり…を作ること。日頃から対話する。

- ・ 看護師として病院で働く中で、人生をその最期までを含めてその人らしく過ごすために事前に話し合っておく必要を痛感し、ACPについて研究したいと考えて大学院に入学しました。お三方のお話を伺って、同じ言葉でも意味づけが人によって異なること、人は自分が知っている姿だけではなく色々な姿をもっていること、価値観も考え方も置かれた状況も何が幸せかも人それぞれであること、を忘れて自分(医療者)の価値観を押し付けてしまうことには十分に気を付けなければと思いました。ACPに関して研究をしながら、自分の親とはまだあまり話せていません。「どういう風に生きたい？人生で何が大事？」ということからゆんたくを始めてみようと思いました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 今40歳で夫婦2人共がんです。治療のときは2人でこうしたい、あれしたくないと毎日話していましたが、治療が落ち着いてその頻度も下がってきました。これからどう生きるかを探るためにも、気軽にお互いの希望を伝えあっていこうと思います。
- ・ 呼吸器内科医です。高齢者の疾患もよく見ます。病院内で入院でしか接しない人とはなかなか腹を割って話すのは難しいですね。元の状態を想像しづらく、接する時間も場所(プライバシー)も制約があり、ご家族とも会いづらい世の中になってしまっています。入院している／または人生の足を引っ張る病気を知ってしまった
- ・ 人生の難局に差し掛かっている人(当事者)に対して、医師の役割は、医師の立場で伝えるべきこと、いろんな人(職種)が当事者が行き詰らないように話を聞きたいと思っていること、当事者だけでなく近い人も一緒に当事者の行く末を見守ることについて考え始めるタイミングであること、を伝えることと出てきました。在宅のプロフェッショナルの先生方や、看取りを経験されました轟様のお話を伺いまして、豊かに過ごす心持を支えること、全員がお互いの気持ちを共有しなければならないことはないこと、そのために心持を変更することについて寛容に接していればよいこと、についてとても共感でき、改めて大切なことであると気づきました。病院にいらっしゃる方々にとって、アクションを起こすチャンネルの一つになれるように、お話の持って生き方を考えたいと思います。今までの心持と、数多くの経験をされておられる方々のお考えが、反対を向いてないとわかりまして、非常に有意義でした。ありがとうございました。
- ・ 小さなことから大きなことまで、きちんと話をした
- ・ この分野における知識を増やしたい。
- ・ どう考えているのか想いを聞きたいと思います
- ・ 家族との雑談の中の人生会議:これからやってみたいことは訪問看護利用者と家族との対話の繰り返し
- ・ ACPで結論を導き出すのではなく、人生の価値観や望むものなどその人の背景をコミュニケーションで共通認識を持つことの大切さを持たたように思います。本人が判断できないような時に、生かしたいと思います。
- ・ とりあえずは、残った親と話す
- ・ 市民啓発、病院と在宅との連携
- ・ 何でも話せる場と相手を少しでも増やす

- ・ □ 一人暮らしの母と私たち兄弟との医療的ケアや葬儀などについての母の希望を聞いたり、子供たちの想いを伝えたりする話し合い。
 - 近況としては、母を訪問時にこれまでのこと、これからの想いなどおしゃべりする時間の確保をして、母の気持ちの変化をとらえられるようにしている。
 - 次男と医療のことなどについての想いの共有。(次男は臓器提供を希望しています。)今後は他の家族とも、医療のことや、これからの人生、どんなふうにお互い生きていきたいのかを話してみたいです。
- ・ 子供の結婚、家族の将来、介護、医療場面において、どうしていきたいか話し合いをしていきたい
- ・ 妻とは折に触れて話をしています
- ・ 今回参加した事で、家族の気持ちを聞く事と、自分の気持ちを話すことから始めようと気がつき、またそうしたいと強く思えました。ACP を更に追求していきたいと思っています。
- ・ 家族との楽しい会話と感謝の気持ちをもつこと。それから高山先生の楢円の話、真理は1つでは無い。これ、話に一貫性のない方にイライラしていた自分の気持ちにストンと入りました。また、進行役の轟さんの3人の看取りエピソードは共感する事が多く、学びの時間でした。オレンジの先生ですが、私は生まれつき障害のある娘が居ますが素敵な活動をなさっていて、前から先生に会ってみたいのですが、やはり、素敵でした。素敵な3人組の素敵な時間をありがとうございました！オンラインで見ごたえがある内容でした。
- ・ 人生会議として意識してやっていたわけではなかったのですが、生きていく上での居場所を作っていくという意味で、昨日皆さまが仰られていた「チャンネルを作る(または増やしていく)」ということはこの数年でできてきました。話すこと、話し合うことの練習も兼ねつつ、これからも続けていきたいと思えます。
- ・ 日頃から、家族とよく話していくこと。
- ・ 子どもたちに「もしお母さんが認知症になっても、大好きなお洋服を着せてくれてと槇原敬之の音楽を聴けばおだやかで優しい気持ちになるからよろしく」と言ってます。
- ・ 「～べき」という概念を捨てて、柔軟に対応しようと思いました。
- ・ 今やりたいこと、続けたいこと、自分の人生において譲れないものについて臆せず話をする事。
- ・ 結論を出すことに重点を置かずに、話し合うプロセスを大切にしたいと思った。高齢者が当人だとすると、本人抜きで話が進みがちだったので、これからはなるべく本人の声も聞けるうちに、ACPとしての介入ができたらと思った。
- ・ これからは家族で話す機会を作り、価値観などを共有しようと思いました。
- ・ 家族といろいろ話したいと思えます。
- ・ 自分で思うように動けなくなった時にどこでどのように過ごしたいのか良く考えてみようと思った。
- ・ 普段の会話の中で何が好きか、どう生きたいか、生き切りたいかを小出しに話す

- ・ どんな話し合いをどのタイミングでしてほしいか、お互いの希望を話し合う
- ・ 八十代の父母と3週間に一回、オンラインで普通の会話をしています。これが人生会議に当たると思っています。
- ・ 興味を持って耳を傾けたいと思いますし、そこから自分の学びを得たい、教わりたいと思います、その話に非常に感銘を受けました
- ・ 普段から家族と、自分はどうしたいかという視点で話すように促している
- ・ 家族に自分の状況を理解させる事、レスパイト入院や緩和ケア病棟がある病院を調べる事、仕事や人付き合いの整理、少しずつ自宅の整理、
- ・ やりたいことを周囲にも伝えておくこと
- ・ あらためて、繰り返しの対話を続けていくことの大切さを学ぶことが出来ました。今回学んだ、以下の点に注意して、やっていきたいと思います。
 - ACPとは、看取りだけの話ではない。ACPとDNARを区別する。
 - 場合によっては、相手の意向を聞くだけでなく、自分の生き方も聞いてもらって、おしゃべりする。
 - 事前指示から人生会議へ。
 - 意志が変わることもある。変わっても良い。
 - 矛盾しているように感じたときこそ、じっくり話す。
 - 本人が意思表示が難しい状況になったとしても、別室で話し合いをするのではなく、本人を囲んで話をする。
 - 病気は本人からも「自分らしさ」を奪うことがあることに留意する。
- ・ 家族と明るい気持ちでしっかり話し合いたい、と思いました
- ・ 身近な人には特に自分の考えを聴いてもらうよう行動する。
- ・ 相手に合わせて、まずは対話をしていこうと思います。
- ・ 自分にとって大切なこと、大切にしていきたいことなどを書き出してみる。
- ・ ACPの必要性について家族と話し合い、もしばなゲームも行った。
- ・ 普段からどう生きたいか周囲(家族・友達)と話をする。日常の雑談の中で語る機会を多く持ちたい。
- ・ 遺される者により良き思い出を残せるように改めて考えることにします
- ・ 術後化学療法中に、神戸大学が作成した人生会議のサポート冊子を記入した。1年後見直ししたが、2年後目はやってない。
- ・ 地域で人生会議の普及に努めていきたい
- ・ 家族と話し合うこと